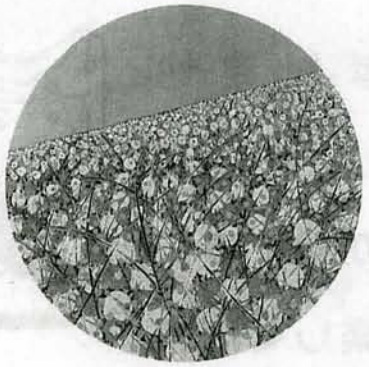


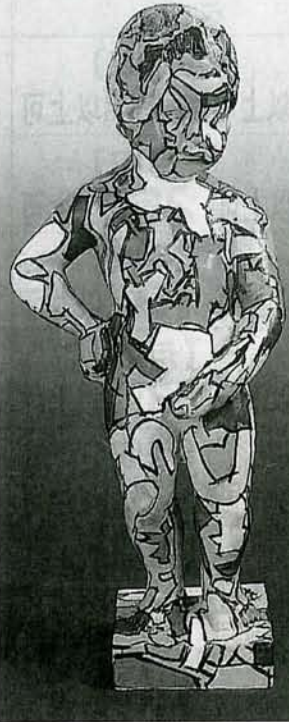
2005年(平成17年) 5月11日 水曜日

## メルシャン軽井沢美術館 パトリック・ジェロラ展 光と音を奏でる世界



《ジャポニダ》 2001年 フレスコ/カンヴァス 直径120センチ  
© Patrick Gerroia

《おもちゃ》 2005年 フレスコ/ポリエステル製の彫形 高さ60センチ  
© Patrick Gerroia



御代田町馬瀬口のメルシャン軽井沢美術館は七月三日まで、「パトリック・ジェロラ」展を開催している。東洋と西洋を共有するベルギー前衛作家の「色彩が光と音を奏でる世界」を紹介する。

パトリック・ジェロラは、一九五九年ベルギーの首都ブリュッセルに生まれた。幼いころから画家である母親の影響を受け、ブリュッセル王立美術アカデミー卒業後、「モダンバレエの魔術師」モーリス・ベジャール主宰の舞踊学校「二十世紀バレエ団」や、同バレエ団の舞台監督ミシャ・ウアン・ウック率いる劇団「ムードラ」で舞台美術を手がけた。

その後、八三年に、生活と創作活動の拠点を日本に移し、つくば科学万博フランス館の装飾や壁画制作などに携

わった。愛知万博ベルギー館出展にも協力し、「ベルギーの民間大使」と言われるほど、ベルギーと日本の文化交流に積極的に関わっている。

「自然界に存在する自然固有の色は、人間を活気づける薬の役割を果たす」と考えるジェロラは、土、石など自然由来の素材を利用し自ら色を創り出す。今回の作品展では、古典的なフレスコ画法で描いた風景画六十点、アクリル画四点、ブリュッセル名物の小便小僧に彩色を施したオブジェ四十二点を展示。独特の色彩と、リズム感のある線やフォルムが、光と音があふれ出すような官能的な世界を生み出している。鎌倉にアトリエを構えた八九年以降は、自然と共存し、巧妙に光を取り入れる日本文化の影響も見られる。今回の見どころは、世界四大宝石百

個(ダイヤモンド、サファイヤ、ルビー、エメラルド各二十五個、合計約二十八個)を用いた新作「祭り」。作品に宝石を取り入れるのは、ジェロラ初めての試みだ。

### ◆メモ◆

午前九時三十分～午後五時。火曜日休館。大人八百円、大学生六百円、中高生五百円、小学生三百円。問い合わせは同美術館(電話0267・32・0288)へ。